

#

記入欄

1	計画名称	次世代シミュレーションで探る天体の構造と起源
2	代表者名	小久保英一郎
3	代表者所属	国立天文台
4	関連する主な研究者コミュニティ名（あれば）	理論天文学宇宙物理学懇談会
5	現在の計画のステータス	計画段階
6	第5期中期計画期間中(2028-2033年度)の予想されるステータス	運用段階
7	計画のScience Goal（計画の核心をなす学術的問い）	宇宙と天体の起原と進化をシミュレーションで明らかにする
8	計画のScientific objectives（計画の研究目的）	次世代のスーパーコンピュータを用いたシミュレーションによって天体の起原と進化を解明する
9	計画が実施するScience investigations（何をどこまで明らかにしようとするか）	現実的な物理を考慮した大規模シミュレーションによって、大規模構造形成、天の川銀河形成、星形成、超新星爆発、降着円盤進化、太陽系の起原を解明する
10	計画の実施期間（既存の計画の場合は過去の期間も含む）	2024-2031年(次期システム)、2031-2036年(次次期システム)
11	計画全体の予算規模（総額、もしくは年度毎の額）	約3.5億円/年
12	上記の中で期待する国立天文台の資金（総額、もしくは年度毎の額）	約3.5億円/年
13	国立天文台に期待する役割	シミュレーションシステムの運用
14	資金調達方針（5種類から数字で選択）	2
	1. 既存の大規模学術フロンティア促進事業費, 2. 運営費交付金（既存計画、新規計画の検討活動・基礎的開発を含む）, 3. 新規 大規模学術フロンティア促進事業への提案, 4. 国立天文台以外の実施機関(たとえば大学や JAXA 宇宙研)予算, 5. 外部資金あるいは競争的資金	
15	実施期間にわたる計画の簡単な線表（画像を添付）	

年次計画	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)	2031(R13)	2032(R14)	2033(R15)	2034(R16)	2035(R17)	2036(R18)
次世代システム	計画 →	運用												
次次世代システム							計画 →		運用					